

鹿ノ台川柳教室 八月度句会

八月十九日(月) 鹿ノ台西集会所

席題「浮かぶ」

奥村義雄選

この年じゃ浮かぶ瀬さがし血まなこよ よし尚  
 せみ時雨突然浮かぶ友の顔 英二  
 相続で葬儀納骨家浮かぶ 宏樹  
 浮かぶ瀬はまだあると知る白寿過ぎ 幸男  
 夏祭り不吉な予感入道雲 哲子  
 眼に涙浮かべられてはだまされる アキラ  
 浮かぶこと悲しいことが多すぎる えいじ  
 氷山も温暖化には降参だ 千楽  
 カラフルな浮輪の花の夏の海 登美  
 仏前で浮かぶ邪心に深呼吸 広子  
 懐かしい顔浮かんで消え夢の中 春代  
 浮かぶ雲私の心見透かされ 充  
 踏んずけても苦い思い出浮かびくる 乃り子  
 秀ライバルに微笑み浮かべつめを研ぐ よう子  
 軸アイデアは浮かぶが上手く取り出せず 義雄

宿題「祭り」(連記)

坪田登美選

サンタ去る待ち構えてる百八ツ 千楽  
 神さんが誰かも知らず空騒ぎ 英二  
 ふるさとの祭りの後の胸さわぎ 哲子  
 はもうなぎ我家はさばで夏祭り 義雄  
 懐かしき古里たどる夏祭り 宏樹  
 カーニバル仮面の下の深いシワ ちさと  
 孫子さり祭り疲れてシツプはる よし尚  
 夏祭りすんでほっこり缶ビール よう子  
 お祭りの金魚すくいもぬるま湯に 乃り子  
 夏まつりなつかしの顔湧いて出る えいじ  
 昨日よりまた若くなる祭り好き 幸男  
 いつも間に神輿を上げずら下がる 充  
 過疎の村負けるものかと夏祭り アキラ  
 わっしょいしよい御輿引く子の汗光る 春代  
 村まつり鎮守のもりのアルバイト 正清  
 秀コンチキチ赤子も爺も拍子とる 広子  
 軸始め良し後はさみしき夏祭り 登美

宿題「鋭い」(互選)

② 鋭角の心で挙げる南無阿弥陀仏 広子  
 小二の子鋭い視線容赦ない えいじ

もどかしい切っ先の冴え今はなく 充

全霊に鋭利な斧をちらつかす ちさと  
 切れ者が宙に浮いてるマイホーム 広子  
 身もちぢむ眼力すごい阿吽像 春代  
 目立たずにここ一番で鬼才出す よし尚  
 民意読み仕掛けてみたらマトを射る よし尚  
 ③ 鋭さをひけらかしてる成り上がり ちさと  
 手抜きない鋭い打球飛んでくる えいじ  
 ④ 一瞬のとまどい妻は見逃さぬ アキラ  
 幼子の見上げるまなこ胸を刺す 哲子  
 退職し目許も緩む鬼刑事 英二  
 ⑥ 丸くなれずシャープでもなくだ円形 乃り子  
 ⑦ 剃刀と呼ばれた友も認知症 義雄  
 見たままの思ったままの子の指摘 アキラ  
 ペットフードランク下げたら気づく犬 乃り子  
 ⑨ 母の目は子の心までお見通し 登美  
 ⑭ 秀末席の鋭い問いが的をつく よう子

宿題自由吟(共選)

岩崎よし尚選

国の為妻の為にと不養生 広子  
 老いらくの恋は日記に閉じ込める 義雄  
 真似をして良くも悪くも育つ子等 義雄  
 暦の上当たらないけどやはり秋 英二  
 老いてなお霧の彼方の夢さがす よう子  
 命脱いだ魂天にお見送り 春代  
 此の頃は腕が上がった手抜き食 乃り子  
 人も虫も命大事と孫が言う 春代  
 張り替えて欲しい余命のバーコード よう子  
 秀受けとめてこだまが違うことを言う 正清  
 軸ヤバイこと一寸脚色話しとく よし尚

宿題自由吟(共選)

森里えいじ選

キャッシュレスブランド財布持ちぐされ よし尚  
 勝利の女神辛いものよと胸の内 アキラ  
 父子帰省世間もなぜか受け容れて 充  
 酷暑です電力危機よ今いずこ 千楽  
 二代目の蔵元下戸で蔵が建つ 広子  
 麻雀が教えてくれたねばり腰 英二  
 此の頃は腕が上がった手抜き食 乃り子  
 国の為妻の為にと不養生 広子  
 受けとめてこだまが違うことを言う 正清  
 盆が過ぎ忘年会の早や準備 アキラ

甲子園熱いドラマに身を正す 哲子  
秀真似をして良くも悪くも育つ子等 義雄  
軸大丈夫介護ベッドは買うてある えいじ

鹿ノ台川柳教室会員の新聞投句 掲載された句  
(七月十六日〜八月十八日各紙掲載分)

朝日新聞 田中新一選

八月十四日 題「あつさり」

子の夢があつさり父を飛び越える よう子  
あの人の二つ返事の気味悪さ 英二

毎日新聞 山田順啓選

七月十八日 題「習慣」

世代交替新たな家風築きあげ よう子  
七月二十五日 題「テレビ」  
リプレイが嬉しいテレビ機敷席 アキラ

八月一日 題「待つ」

あと五年待ってくれよも根拠無し 幸男

読売新聞 阪本高士選

七月二十一日 題「怖い」

怖いのはギリギリという無重力 正清  
死の怖さ知れば世の中穏やかに 幸男

七月二十八日 題「上」

どん底といって見上げる空がある 正清

奈良新聞 居谷真理子選

七月十七日 題「苦労」

苦労にも松竹梅のランクあり 英二  
気苦労がすぎてステント入れられる 正清

七月二十四日 題「とろとろ」

名泉と酒にとろける湯治宿 アキラ  
とろーりと微睡む午後の心地よさ 春代

七月三十一日 題「男」

耳垢をとった男の骨をだく 正清  
イケメンの机拭いたらもう噂 アキラ

男気ふところいつも時化ってる よう子

朝昼晩ひげを剃ってる女形 英二

八月七日 題「誘う」

誘ったのは向こうだったとお互いに 英二

満月に誘い出されて千鳥足 よう子  
誘い水食事まんまとおごらせる 春代  
八月十四日 題「偶然」

偶然に生まれて必然に生きる 正清  
人間に生まれただけで丸儲け 英二  
妻との出会い偶然ですと小さい嘘 アキラ  
偶然に幸せがあり不幸あり 幸男

奈良新聞 自由吟

七月十八日 大楠紀子選

輪切りして病巣みつける医学の目 よう子  
木と草と森林浴の虫もいる 正清  
大腸を大掃除するガン検査 幸男  
リハビリの歩行に新緑のエール アキラ  
八月八日 松本柁子選

ひねしように食べてうつけを受け入れる 正清  
月の地図散骨場所を探してる よう子  
血洗い心の灰汁も落ちてゆく アキラ  
湿布する治せぬこころ傷の痕 幸男  
八月十五日 松本柁子選

ささやかれひとつの秘密重くなる よう子  
ドタバタで暮れる一日それもよい アキラ  
かびくさくほどこしようなない脳波 正清  
目立ちおるスマホを持たぬ電車内 幸男

\* 橘正清、林勝利、前田幸男、勝部乃り子、  
山神春代、各氏は短歌俳句でも活躍

次回 九月十六日、十二時十五分開場、西集会所

宿題は「奈良」、「憧れる」、「自由吟」各二句

\* 席題 義雄選 十二時三十分お題発表

\* 「奈良」(連記) 英二選

\* 「憧れる」(互選)

\* 自由吟(共選) 春代選 宏樹選

出句、宿題・席題とも十三時

自治連合会公認クラブ。生駒番傘川柳会のご指導  
を得て、日頃の生活を、喜怒哀楽を、五七五に  
句会のご見学、ご入会大歓迎、会費一ヶ月百円

問合せ 原 広子(79・0061)

野々村詮(090・6961・1292)